デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026 年 11 月 19 日(木)　発行：ていネコの投資ノート

1．本日のサマリー

- **日経平均は続伸、TOPIX は続落。**日経平均は前日比 419.93 円高の 59,444.21 円と 2 日続伸した一方、TOPIX は 1.53 ポイント安の 3,822.47 で、16 日から 4 営業日続けて下落した。東証プライムでは値下がり 897 銘柄が値上がり 599 銘柄を上回り、指数の上昇は一部の値がさ株に偏った。
- **買い材料はアンソロピックの公開価格。**市況報道では、米 AI 開発企業アンソロピックの新規株式公開(IPO)価格が仮条件の 70～78 ドルを上回る 83 ドルに決まったことが買い材料として挙げられた。ソフトバンク G と東エレクの 2 銘柄だけで日経平均を 246.45 円押し上げた(筆者算出)。
- **物色は AI・半導体の一角とゲーム、売られたのは資源・商社。**情報・通信、電気機器、その他製品が上昇率上位に並んだ一方、銅など資源価格の急落を受けて海運、鉱業、非鉄金属、商社が売られ、TOPIX の重荷となった。
- **米国の利上げ観測と国内金利の低下が併存。**10 月 FOMC 議事要旨とウォラー FRB 理事の発言で 12 月の追加利上げ観測が強まり、NY ダウは 561.25 ドル安。一方、米長期金利が低下するなか、国内の新発 10 年国債利回りも 2.820%(前日比−0.050 ポイント)に低下した。

2．主要指標

指標	水準	前日比	備考
日経平均(円)	59,444.21	+419.93	+0.71%。高値 59,660.61・安値 58,750.53
TOPIX	3,822.47	−1.53	−0.04%。16 日から 4 営業日続落
225 銘柄の騰落	95／127		日経平均採用銘柄の値上がり／値下がり
SBG＋東エレクの寄与	246.45 円		上げ幅の 58.7%(筆者算出)
NT 倍率(筆者算出)	15.55 倍		前日は 15.44 倍
プライム売買代金	7 兆 7190 億円		概算。売買高は 24 億 994 万株
値上がり／値下がり	599／897		変わらず 54 銘柄。上昇は 33 業種中 15 業種
新発 10 年国債利回り	2.820%	−0.050	DZH。前日値は日本相互証券と照合。前日比はポイント
長期国債先物 12 月限	126.65	+0.31	清算値。日中始値 126.32
ドル円(円)	159.54	+0.19	15 時時点。17 時は 159.70 円、高値 159.75 円
ユーロ円(円)	174.96	+0.09	15 時時点。17 時は 175.39 円
NY ダウ(ドル)	50,198.17	−561.25	11 月 18 日。-1.11%、続落
ナスダック総合	24,429.88	+101.50	11 月 18 日。+0.42%、反発
S&P500	7,323.63	−16.90	11 月 18 日。-0.23%
SOX 指数	9,652.80	+9.92	11 月 18 日。+0.10%
米 10 年債利回り	5.067%	−0.038	11 月 18 日終値。前日比はポイント
WTI(ドル／バレル)	83.26	−2.75	12 月限。11 月 18 日。-3.20%
韓国 KOSPI	5,137.89	+70.45	11 月 19 日。+1.39%、続伸
上海総合指数	3,577.62	−10.21	11 月 19 日。-0.28%

3．株式市場

値動きの経緯：一時 630 円超高も、上値では戻り売り

前日の米国市場はダウが大幅安となる一方、ナスダックは反発とまちまちだった。日経平均は半導体関連の買いで小高く始まり、アンソロピックの公開価格が想定を上回ったことが伝わると上げ幅を広げ、前日の高値を上回る 59,660.61 円まで上昇した。ただし、米国の追加利上げへの警戒と AI 投資の持続性への見極めムードから上値では利益確定売りが出て、後場は伸び悩んだ。それでも日経平均は引けにかけて持ち直した。TOPIX は 1 日の大半をマイナス圏で推移し、日経平均との方向の違いが最後まで解消しなかった。

物色動向：AI・ゲームに資金、資源・商社・保険は売り

業種別では、その他製品、情報・通信業、電気機器、精密機器、サービス業が上昇率上位。人気ゲームの新作発売を控えたソニー G のほか、任天堂、コナミ G などゲーム関連が買われ、米国でのサイバー攻撃への警戒を受けてトレンドマイクロなどセキュリティ関連にも資金が向かった。半面、海運業、鉱業、非鉄金属、保険業、卸売業が下落率上位で、銅先物の急落を受けた JX 金属、住友金属鉱山のほか、豊田通商、三菱商事、三井物産など大手商社が軒並み安い。半導体でもアドバンテストやフジクラ、イビデンは下げ、AI 関連の中でも銘柄選別が進んだ。

売買動向：商いは細り、イベント待ちの様相

東証プライムの売買代金は概算で 7 兆 7190 億円と、前日の 8 兆 502 億円から減少し、16 日以降の 4 営業日で最も少なかった。日経平均が上昇しても商いは膨らまず、上値を積極的に追う投資家は限られた。米国でのアンソロピック上場、12 月 FOMC に向けた利上げ観測、21 日からの 3 連休と、結果を見極めたいイベントが重なったことが手控えの背景とみられる。値下がり銘柄がプライム全体の約 6 割を占めたことも、この日の上昇が指数主導で、物色の広がりを欠いていたことを示している。

個別の材料

ソフトバンク G は出資先の競合であるアンソロピックの公開価格が上振れ、AI 関連の企業価値に対する懸念が和らいだとの見方から大幅高。キオクシア HD やレーザーテックも上昇した。J フロントはインバウンド需要の底堅さと資本効率の改善期待で買われ、GENDA は 10 月の売上高が 23.6%増と伝わって堅調。大崎電気はサイバー攻撃でスマートメーターの生産・出荷を停止し売られた。

4．本日の主題：日経平均高・TOPIX 安の「ねじれ」が映すもの

この日の日経平均の上げ幅 419.93 円のうち、ソフトバンク G（124.59 円）と東エレク（121.86 円）の 2 銘柄だけで 246.45 円、58.7%を占めた（筆者算出）。日経平均の採用 225 銘柄で見ても値上がり 95 銘柄に対し値下がり 127 銘柄と下落の方が多く、値がさ株の寄与（値上がり銘柄の合計 677.50 円）が、値下がり銘柄の重し（同 257.57 円）を上回った構図である。NT 倍率は 15.55 倍と前日の 15.44 倍から上昇した（筆者算出）。

この日は二つの動きが同時に見られた。一つは AI 関連で、市況報道ではアンソロピックの公開価格が買い材料として挙げられ、上昇は日経平均への影響度が大きいソフトバンク G や東エレクに集中した。もう一つは資源関連などの下落で、銅・金など資源価格が下落するなか、東証では非鉄金属、保険業、卸売業が下落率上位だった。海運業、鉱業も下落率上位で、上昇は 33 業種中 15 業種にとどまった。

したがって、日経平均の続伸を「市場全体の回復」と読むのは早い。アドバンテストが下落したように半導体の中でも選別が進んでおり、AI 関連の上昇は個別の材料に左右されやすい状態にある。上値を追う動きが広がるには、TOPIX が下げ止まり、値上がり銘柄数が値下がり銘柄数を上回る日が続くかを確認する必要がある。

5．債券・金利

長期国債先物 12 月限は日中始値 126.32 円から持ち直し、清算値は 126.65 円（前日比+0.31 円）となった。日中は 126.74 円まで上昇する場面があった。新発 10 年国債利回りは 2.820%と前日から 0.050 ポイント低下し、16 日から続いた 2.8%台後半での推移から一段下がった。米国では追加利上げ観測が強まる一方、前日の米 10 年債利回りは 5.067%（−0.038 ポイント）に低下しており、国内の長期金利も同じ方向に動いた。

6．為替・商品

ドル円は 15 時時点で 159.54 円（NY 終値比+0.19 円）。夕方にはナスダック先物の上昇を受けて買われ、前日高値の 159.65 円を上抜けて一時 159.75 円をつけ、17 時は 159.70 円。ユーロ円は 15 時時点で 174.96 円（+0.09 円）17 時は 175.39 円と株高に伴う円売りで上昇した。ユーロドルもリスク選好の買い戻しで 17 時に 1.0982 ドルまで水準を切り上げており、夕方にかけては円売りが優勢となった。商品では、WTI 原油 12 月限が需給の緩みを背景に 1 バレル 83.26 ドル（−2.75 ドル、−3.20%）と 8 月下旬以来の安値に沈んだ。銅や金の先物も急落し、資源株と商社株の売りにつながった。原油安はインフレ懸念の後退を通じて金利低下を促す半面、資源関連の業績には逆風となる。

7．海外市場の動向

11 月 18 日の米国市場は、NY ダウが 561.25 ドル安（−1.11%）の 50,198.17 ドルと続落した。米当局が不正対策の規則案を示したことなどで医療保険株が急落し、指数を押し下げた。ナスダック総合は 101.50 ポイント高（+0.42%）と反発したが、13 日の 25,136.27 からは 2.81%低い水準にとどまる（筆者算出）。S&P500 は−0.23%。エヌビディアは 17 日に市場予想を上回る決算と強気の見通しを示したものの 2.89%安と売られた一方、AMD は 5.31%高。SOX 指数は 9,652.80（+9.92）と小幅高にとどまった。19 日のアジアでは、韓国 KOSPI が+1.39%と続伸し、上海総合指数は−0.28%と小幅安だった。日本時間 19 日夕方の時間外取引では、米株価指数先物がアンソロピック上場への期待から堅調に推移している。

8．直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	10 年債	売買代金
11 月 16 日（月）	59,662.02	−1,480.33	3,901.37	2.885%	7 兆 9303 億円
11 月 17 日（火）	58,860.43	−801.59	3,840.02	2.860%	7 兆 9154 億円
11 月 18 日（水）	59,024.28	+163.85	3,824.00	2.870%	8 兆 502 億円
11 月 19 日（木）	59,444.21	+419.93	3,822.47	2.820%	7 兆 7190 億円

9．総括と注目点

16 日、17 日の大幅安の後、日経平均は 2 日続伸で 59,000 円台を回復した。ただ、19 日の上げ幅の 58.7%はソフトバンク G と東エレクの寄与で（筆者算出）、東証プライムでは値下がり銘柄の方が多かった。米国の利上げ観測、資源価格の下落、AI 銘柄の選別という三つの力が同時に働いており、指数の方向感は当面定まりにくい。

- **アンソロピック上場後の値動き：**初値と上場後の推移が、ソフトバンク G や半導体関連の評価を左右する。
- **米 12 月 FOMC に向けた利上げ幅の観測：**FRB 高官の発言と米 2 年債利回りの動きで、0.25%超の利上げが織り込まれるかを確認したい。
- **国内の決算反応：**19 日に発表された東京海上、MS&AD、SOMPO の保険大手や JT（今期最終の下方修正と減配）の決算に対する 20 日の反応。
- **3 連休前の手じまい：**23 日（月）は勤労感謝の日で東証は休場。連休中の海外市場の変動を警戒した持ち高調整が出やすい。

脚注：数値は 2026 年 11 月 19 日 17 時台に取得。東証プライムの売買代金・売買高は概算値。NT 倍率、寄与の合計と比率は筆者算出。日経平均の始値・高値・安値、騰落銘柄数は株探のみで確認（騰落数は株探の 2 記事で一致し、フィスコの比率と整合）。新発 10 年債利回りは DZH の値（前日値 2.870%は日本相互証券の 11 月 18 日終値と一致）で、フィスコ系列では 2.819%（前日 2.859%から−0.040 ポイント）。2 年・5 年・20 年債利回りは、引用元の配信記事の日付表記に誤りがあり別系統で確認できないため掲載を見送った。国債先物の日中始値（8 時 45 分）と高値はフィスコのみ、清算値はフィスコと DZH で一致、ドル円・ユーロ円の水準と高値は DZH のみ（15 時・17 時の各概況。ドル円の前日比は NY 終値 159.35 円との比較）米 10 年債利回りは時事通信のみで確認し、前日比は同社の印字値で筆者検算は未実施。S&P500 の前日比は株探と時事の印字値。ナスダック総合は FRED（Nasdaq 公式系列）と時事通信の 24,429.88 を採用し（13 日の値は FRED のみで確認）、株探・フィスコの 24,429.89 とは 0.01 の差がある。WTI は 12 月限で、フィスコは 1 月限の 81.86 ドル（−2.79 ドル）を掲載。上海総合指数は株探のみで確認し前日比は印字値。直近の推移の 11 月 16 日の値と 10 年債利回りは単一出典（株探、日本相互証券）、11 月 17 日の TOPIX は TBL のみで確認。香港ハンセン指数は終値を確認できず掲載を見送った。本資料は生成 AI を用いて公開情報を整理・執筆した。

出典：株探、フィスコ（財経新聞・Yahoo!ファイナンス・株探掲載）、共同通信（OANDA 掲載ほか）、時事通信、ロイター、DZH（OANDA 掲載）、日本相互証券、マネックス証券、TBL、聯合ニュース、countryeconomy.com、Nasdaq。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。